

参考

本夏の低温による米の需給への影響などについて

平成15年9月
農林水産省

問い合わせ先：総合食料局食糧部計画課
代表：03 - 3502 - 8111
内線：5724
直通：03 - 3501 - 3798
担当：渡辺

本年の水稻の作柄状況

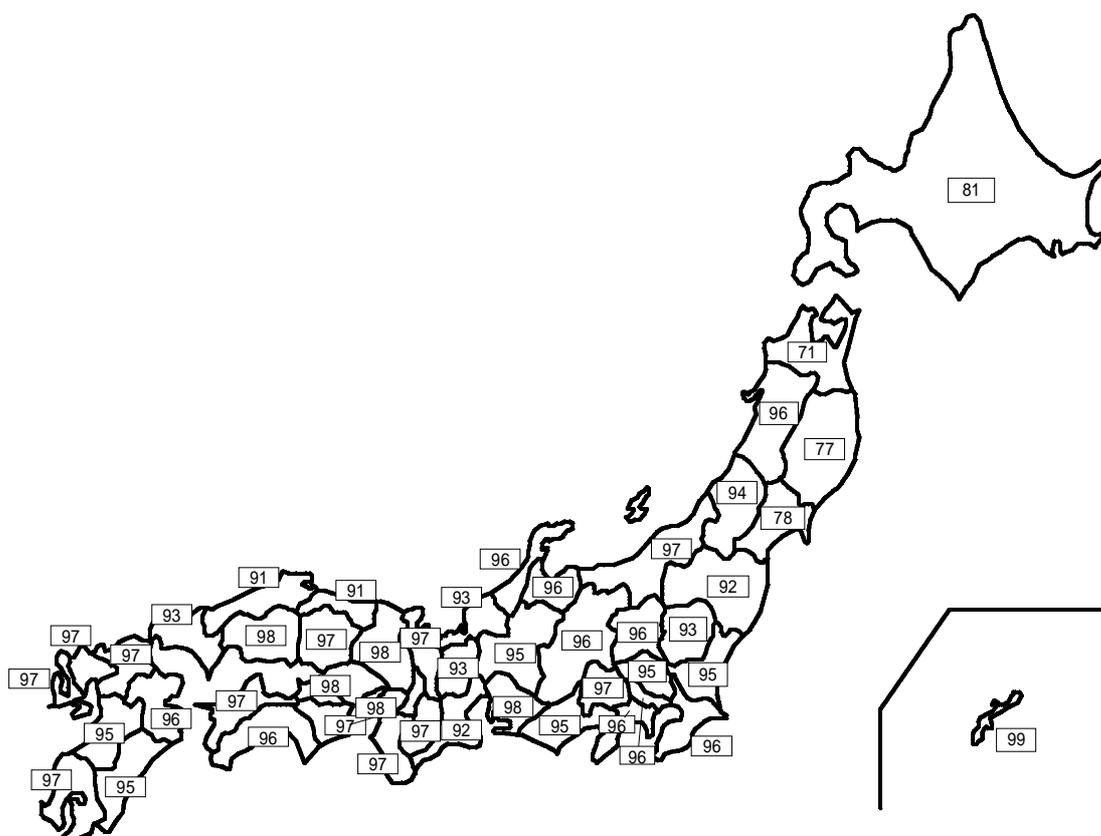
「平成15年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況」(9月26日農林水産省公表)では、北海道では、太平洋側の地域を中心として、7月中・下旬の著しい低温の影響により不稔もみが多発したこと等から、作況指数(10a当たり平年収量比)は81が見込まれる。

また、東北では、北海道と同様の状況にあり、作況指数は、青森、岩手、宮城では71~78が見込まれ、全体では86が見込まれる。

さらに、その他の地域では、6月中旬以降の日照不足の影響等により作況指数は95から99が見込まれる。

この結果、全国平均では、作況指数は92(10a当たり収量は482kg)が見込まれる。

平成15年産水稻の都道府県別作柄概況(9月15日現在)



注1: 西南暖地の早期栽培の地域(徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県)は早期栽培、普通栽培をたし合わせたものである。

注2: 沖縄県は第1期稲の作柄である。

現在の米需給について

現在、我が国の年間の米需要量は、概ね 870 万トンである。

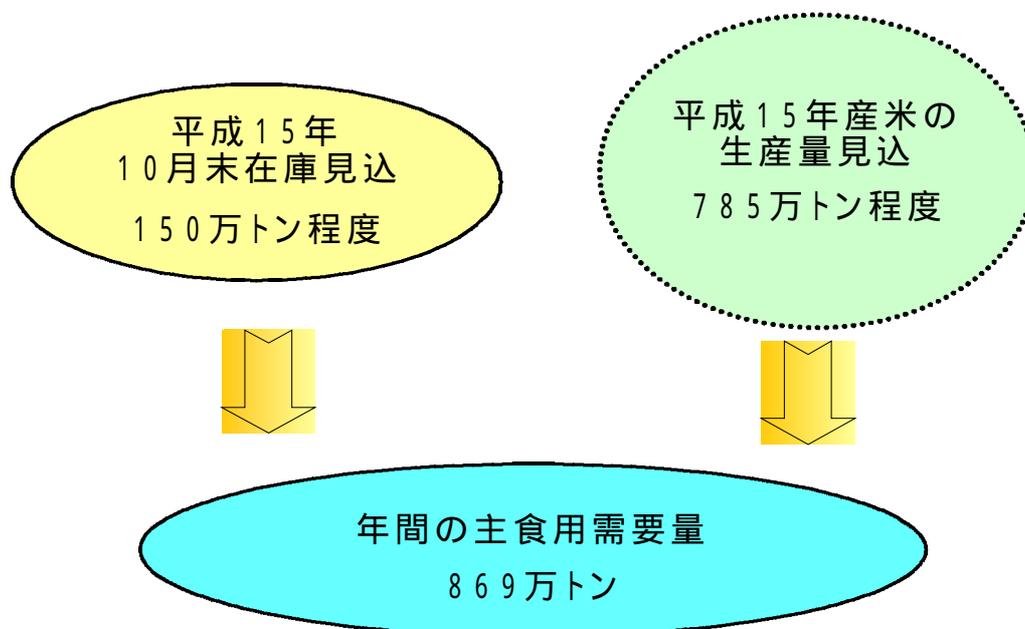
他方、米の供給については、

平成 15 年 10 月末見込みの米の在庫については、平成 15 年産米の不作懸念から仮需が発生している状況にあるものの、不測の事態に備えて政府が保有している国産備蓄米等が 150 万トン程度あること

平成 15 年産米の生産量は、作柄概況調査の作況指数 92で試算すると785 万トン程度と見込まれること

から、需要量を十分上回る供給量が確保されると見込まれ、国民に対する米の安定供給に支障はないものと考えている。

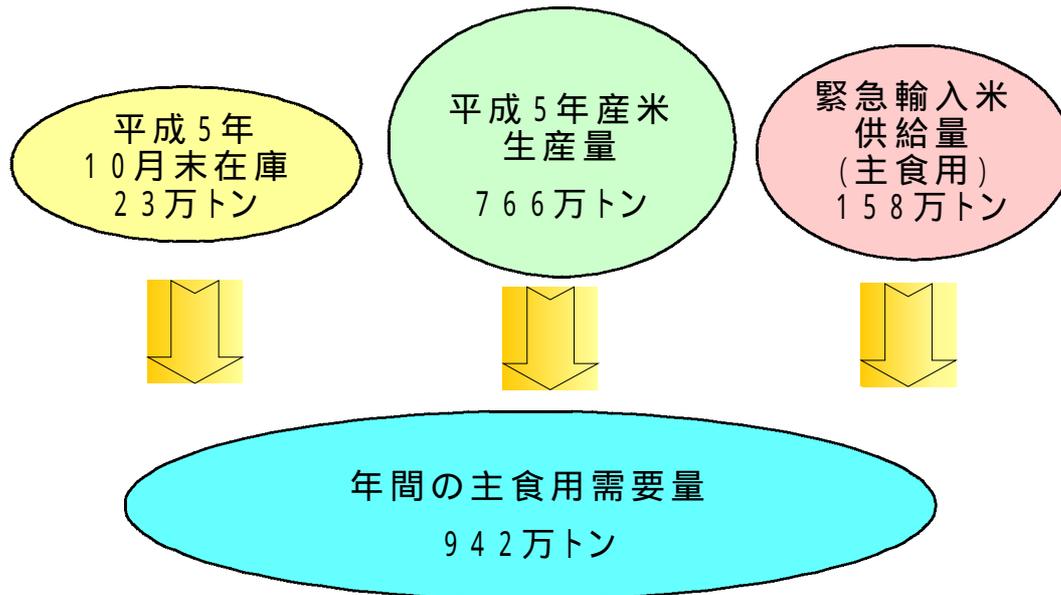
平成 15 年産米の主食用の需給状況



(参考)

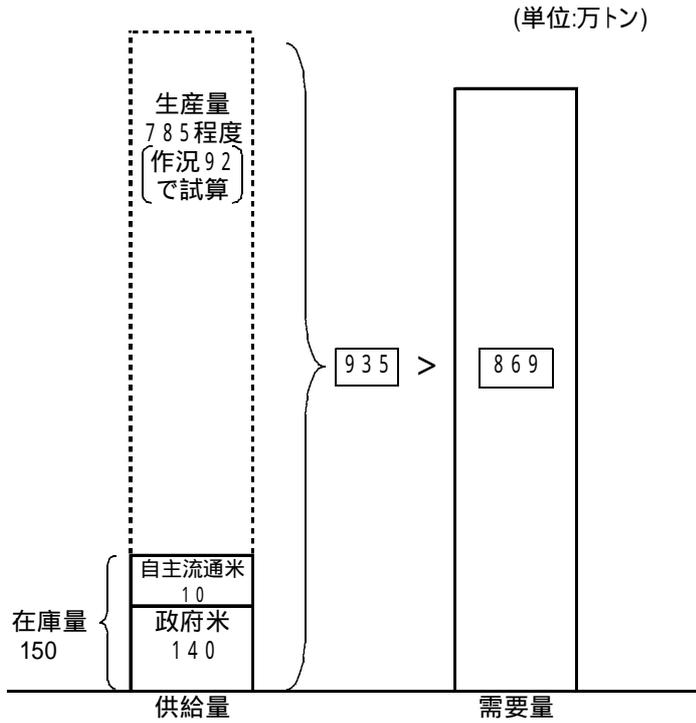
平成5年の大不作の際は、平成5年10月末時点の米の在庫量が23万トンしかなく、国産米だけでは国民が必要とする米の供給ができなかったため、加工用等を含め259万トン(主食用向け158万トン)にのぼる米の緊急輸入を実施。

平成5年産米の主食用の需給状況

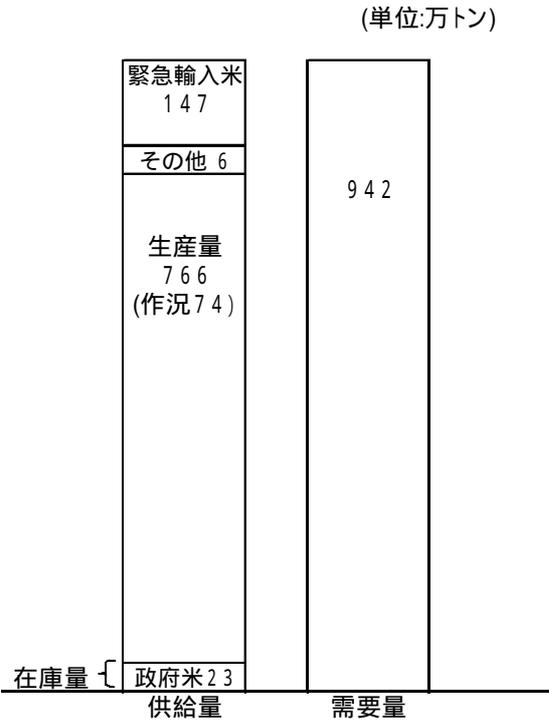


平成16米穀年度と平成6米穀年度の米需給の比較

平成16米穀年度(見込)
(平成15年11月～平成16年10月)



平成6米穀年度
(平成5年11月～平成6年10月)



- 注1) 緊急輸入米の平成6米穀年度主食用供給は147万トンであるが、緊急輸入米全体での主食用供給量は158万トンである。
 注2) その他は、平成6年10月までの平成6年産の供給量である。

米の価格と需給の安定に向けた取組

平成15年産米の作柄不良が懸念される中で、米の適正な流通を確保し、消費者の信頼を図る必要がある。

このため、国では、以下のような措置を講じている。

平成15年産米の不作懸念により仮需が発生し、平成14年産米を中心として卸売業者からの引き合いが強くなっているため、

- ・ 平成13年産以前の政府米については通常どおり積極的に販売（8月以降これまで約29万トン契約）
- ・ これまで販売していなかった平成14年産政府米の販売を開始（8月以降これまで約10万トン契約）
- ・ また、調整保管されている自主流通米（14年産：10万トン）を取り崩すことを公表（9月3日）

米流通関係者からなる「米の安定供給連絡会議」を立ち上げ、米の作況、集荷・流通に関する正確な情報の交換・把握、売り惜しみ、便乗値上げ等流通を混乱させる行為の防止等につき要請

（8月27日、9月26日）

これまで毎月1回実施していた米の卸売・小売価格の調査について、9月16日の週から毎週実施

精米の不正表示の増加が懸念されるため、9月中旬から12月中旬まで、小売・卸売業者等における米の品質表示状況の調査やDNA分析による適正表示の確認等を実施

お米の需給事情や作柄についてタイムリーに情報提供するため、農林水産省のホームページに、現在のお米の状況、価格、安定供給に向けた対策を内容とする「冷夏のお米への影響（作柄と需給に関する最新情報）」を掲載し、備蓄米について低温保管している等の情報を伝達